

033

After Century

Art Campus

Photography
Cinema
Fine Arts
Music
Literary Arts
Theatre
Broadcasting
Design



★★★★★★★★★★★★★★★★

第9回「日藝賞」の実施について

投票期間
平成26年11月6日[木] - 11月27日[木]

1 目的
著しく日藝の名声を高め、その業績が社会に貢献し、
芸術を志す学生の夢の対象となる人に授与する

2 対象者
日藝に在籍していた人で分野は問わない

3 候補者選出
在学生(学部・大学院)、専任教職員、臨時職員、非常
勤講師、芸術学部校友会役員の記名投票により選出

- 4 投票箱設置場所
- ① 江古田校舎正門守衛室
 - ② 江古田校舎南門守衛室
 - ③ 江古田校舎各学科事務室
 - ④ 江古田校舎西棟事務局カウンター前
 - ⑤ 江古田校舎食堂兼学生ホール食券売り場前
 - ⑥ 所沢校舎正門守衛室
 - ⑦ 所沢校舎各学科事務室
 - ⑧ 所沢校舎事務局カウンター前
 - ⑨ 所沢校舎図書館カウンター
 - ⑩ 所沢校舎アートセンター

5 受賞者決定
投票によって選出された候補者について、学部長を
委員長とした日藝賞選考委員会で最終選考を行い、
1名は得票数の多かった者から選出、1名は得票者
の中から日藝賞選考委員会にて審議の上選出。平成
27年1月下旬に受賞者2名を発表

6 授賞式
平成27年度入学歓迎式の中で実施予定

7 記念講演会
受賞者2名は平成27年度中に
記念講演会を実施

★★★★★★★★★★★★★★★★

T O P I C S

第9回

日藝賞

始まる...



2nd: BAKUSHO-MONDAI



1st: Ryuta Satou



3rd: Kankuro Kudo



2nd: Yoshino Oishi



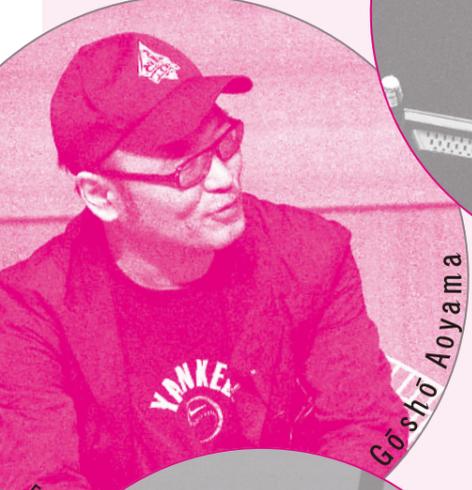
3rd: Hiroyuki Sanada



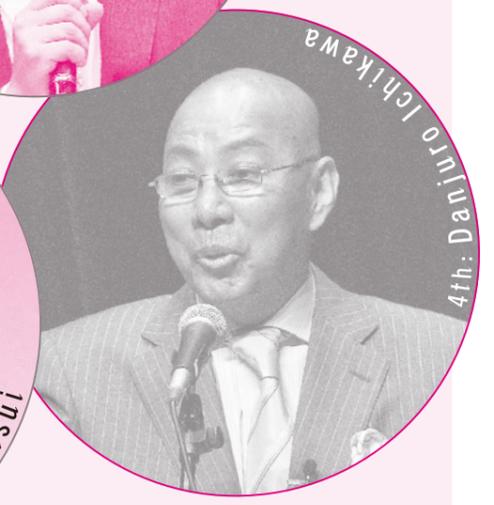
4th: Shigeki Miyajima



5th: Mariko Hayashi



Gōshō Aoyama



4th: Densetsu Ichikawa



7th: Banana Yoshimoto



6th: Tatsuya Matsui



5th: Kouichi Morita



8th: Shigeru Matsuzaki



8th: Eiichiro Sakata



6th: Eiichiro Funakoshi

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------|---------|------------|--------|-------------|--------|--------------|--------|-------|-------|-------|-------------|-------------|-------|-------|----------|----------|----------|---------------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|----------|-------|--------------|---------|-------|----------|
| 池松壮亮 | 三宅由佳莉 | 近森真央 | 佐伯泰英 | 瀧波ユカリ | 小杉十郎太 | 本仮屋ユイカ | 大澄賢也 | 三浦建太郎 | 高橋英樹 | 浅利香津代 | 群ようこ | おおたうに | 竹内順子 | 笹野高史 | 白川義員 | 照屋年之(コウ) | 森本レオ | 菅賢治 | 篠山紀信 | 金子ありさ | 荒井良二 | 塚本晋也 | 君塚良一 | 蒼井優 | 中村獅童 | 大塚寧々 | 富野由悠季 | 小山薫堂 | 小野大輔 | 石田彰 | |
| 映画 俳優 | 音楽 海上自衛隊東京音楽隊 | 映画 撮影監督 | 映画 小説家・写真家 | 写真 漫画家 | 放送 声優・ナレーター | 演劇 女優 | 演劇 タレント・ダンサー | 美術 漫画家 | 演劇 俳優 | 演劇 女優 | 文芸 作家 | 放送 イラストレーター | 演劇 声優・ナレーター | 映画 俳優 | 映画 俳優 | 写真 写真家 | 映画 お笑い芸人 | 放送 俳優・声優 | 放送 テレビプロデューサー | 写真 写真家 | 映画 脚本家 | 美術 絵本作家 | 美術 映画監督 | 放送 脚本家 | 演劇 女優 | 演劇 歌舞伎俳優 | 写真 女優 | 映画 アニメーション監督 | 放送 放送作家 | 放送 声優 | 演劇 声優・俳優 |

第8回日藝賞の
主な得票者は次のとおりです
《第9回日藝賞投票の参考にしてください》

そして、これからも学び続ける。

4年間、一生懸命学んできた。
けれど、まだまだ学びたいことがある。
日藝でつかんだ夢をかたちにするために、
「社会」という新しいフィールドで、変わることなく学び続ける。



放送学科 4年

竹内 彬人さん

☆自分が作ったネタを、自分で演じる

人々が笑いを求めている時代なのだろうか。お笑い芸人と呼ばれる人たちが次々と誕生し、テレビではいつもどこかで笑い番組をやっている。そんな時代の中で、お笑い芸人を目指す若者が増えているという。竹内彬人もその一人である。

日藝に入学してから自主制作でラジオ番組を作ったり、『ロマンス少年』というサークルでバラエティ番組を作ったり、いろいろなことに挑戦してきた。週一で更新していたラジオ番組は、毎回、オープニングコントから番組が始まるというスタイル。そのコントの台本を作っていたのが竹内だった。「自分が書いた台本で演じてもらう時、ああ、もっとこういう風に見えるのがいいの」という場面がよくありました。それならいっそ、自分で書いたネタを自分でやろうと思って、大学2年の6月に初めてお笑いの舞台に立ちました。

現在、プロではなくインディーズのお笑い芸人として、芸能事務所のオーディションを受けたり、都内のお笑いライブに出演。当初はピンとして一人で舞台に立っていたが、最近、同じくインディーズで活動していた同い年の芸人と組んで『オルカ』を結成。竹内が台本を書き、「オリジナリティのある笑い」を目指して活動を続けている。

☆「笑い」に救いを求めた高校時代

一人っ子で、内向的だった竹内は、小さい頃からテレビっ子だった。好きな番組はお笑い。外で遊ぶより、一人でお笑い番組を観るほうが好きだった。本格的にお笑いに興味を持ったのは、高校の時。彼は高校時代、引きこもりだった時期がある。中学の時は生徒会長をするほど活発だったが、高校受験に失敗して滑り止めの高校に入学。最初のテストでトップクラスの点数を取った彼は、勉強もせず自暴自棄に。友達もできず、やがて学校に行かなくなったそうである。「家ではYouTubeでお笑いばかり観ていました」。今だから笑って話せるが、当時は苦しく、つらかったという。そんな彼を救ってくれたのが、「笑い」だったのかもしれない。



現在、コンビ名『オルカ』として活動中。月1回お笑いライブ『wakateの間』で舞台にあがっている。

日藝に入学した当時は、お笑いの道を目指すとは想像もしていなかった。が、導かれるようにその世界へ。引きこもりだった頃に夢中になってお笑い番組を観たことが、心のどこかに残っていたのかもしれない。人生、決して無駄な経験はないのだ。

☆「笑い」を表現し続けたい

『オルカ』は今、インディーズの若者たちが集うお笑いライブ『wakateの間』に毎月出演。また、インディーズの芸人4組とお金を出し合って会場を借り、ユニットライブを開くなど地道に活動を続けている。「観客にウケた時も楽しいけれど、それ以上に自分がおもしろいと思うものを100%表現できた時が一番楽しい」と彼は言う。競争が激しい世界だが、今後は芸能事務所に所属し、活動の幅を広げたいと夢をふくらませている。

4年間の集大成といえる卒業制作では、演劇風のコント作品を制作する予定だ。もちろん竹内が台本を書き、照明、音響、カメラ、ADなどスタッフはほとんどが大学の仲間たち。すでに台本はできあがった。どん底にいた竹内を救ってくれたお笑いの世界。大学生生活の最後に、彼は観客にどんな笑いを届けてくれるのだろうか。



授業のテレビ番組収録で、ディレクターを務めた。授業で身に付けた「客観的なモノづくり」は、コント作品を作る上でも役立っている。



映画学科 撮影・録音コース4年

廣中 愛子さん

☆中学時代に抱いた、日藝への憧れ

雑踏の音、鳥の声、人の声、風の音…。私たちは様々な「音」に囲まれて生きている。そんな「音」の奥深さに魅せられ、学び続ける一人の学生がいる。それが廣中愛子である。長崎出身の廣中は中学2年の時に日藝の存在を知り、日藝に入るために日大の付属高校に進学。高校では放送部に所属し、ドキュメンタリー作品の制作や朗読などを手がけた。一方で幼い頃から漫画や音楽、映画などにも興味があり、高校ではバンドを組んでライブ活動をしたこともある。「当初は“これがやりたい”という具体的なものは決まっていませんでしたが、いろいろな体験をする中で、徐々に映像や音の世界に興味を持った」と彼女は言う。「音は映像、音楽、映画などすべての根源。映像にも興味があったので、音を根本から学んでみたいと思って録音を専攻しました」。

☆いかに自然で、聞きやすい音を作るか

廣中は同じ学科の友人たちやサークルの仲間とタッグを組み、これまで多くの映像作品作りに参加してきた。ホームビデオのように映像と音を同時に収録するのは違い、映像作品は映像と音を別々にとり、最終的に映像と音を合わせて一つの作品を作りあげる。まず、作品が何を訴えようとしているのかを理解した上で、シーンごとにどんな録音機材を使えばいいかを考える。さらに最終段階のダビング作業では映像を観ながら音を聞き、観る人にいかに自然に、いかに鮮明に聞こえるかを何度も検証し、不要な音を小さくしたり、画面に合わせて音をフェードアウトするなど細かい調整を加えていく。そうした作業を経て、ようやく一つの作品が完成するのである。

彼女は昨年、映画技術IIIで録音したドキュメンタリー作品『乙女文楽とひとみ座』で、第14回特等機構技術賞、学生部門・審査員奨励賞を受賞した。これは江戸時代に端を発した人形浄瑠璃文楽を女性のみで演じる「乙女文楽」を伝承する、ひとみ座の活動を紹介した作品である。

「ドキュメンタリーは人の生活の断面を切り取るものなので、非常に難しかったですね。たとえば稽古中のシーンで、役者さんの声を抑えながら稽古をつけている人の声を重点的に録るためにはどうすればいいか、公演会場の雰囲気を出すにはどうすればいいか、マイクの種類を変えながら最適な音を録るよう工夫しました」。その結果、手にすることができた栄誉ある賞。しかし彼女は言う。「奨励賞なので、もっと頑張れよと背中を押された気がします」。聞こえていて当たり前。それだけに音の世界は奥が深いようである。

☆友人たちと、いつか仕事の現場で…

行動的で、好奇心旺盛な廣中は、大学では映画制作のサークル「ズッキーニ」とバレーボール部に所属。多忙な課題制作の合間を縫って、サークルや部の活動にも意欲的に取り組んできた。それだけに友達も多い。「サークルの仲間はいつも冗談を言い合っていますが、芸術祭の前にみんなで集まって、あだこうだと言いながら一晩で10分の作品を作ることもあるんですよ。楽しいだけではなく、すごくパワフル。私の自慢の友人たちです」。

4年になった今、彼女は就職活動の真っただ中である。受けているのはテレビ制作会社、ラジオ関連の企業など。「まだまだ勉強不足だし、もっといろいろな人と知り合いたい。社会に出てからどんなことが学べるか、どんな人に会えるか、今からワクワクしています」。

すでに大手企業に就職が決まった仲間も多い。「いつの日か、仕事の現場で大学時代の友人たちと一緒になれたらいいですね」。映像、録音などそれぞれの分野で学び、共に一つの作品を作るために切磋琢磨した友人たち。卒業後は、今までのように頻繁には会えなくなるだろう。しかしその絆はこれからも続く。



シーンによってマイクを使い分け、よりよい音を録音する。重いマイクを持って……撮影は体力も不可欠である。

◇「笑い」という、最も身近な娯楽。……自分がおもしろいと思ったものを、自分で表現する。

◇目に見えないけれど、大切なもの。……映像を生かす「音」、聞きやすい「音」をつくる。

すべては優秀なクリエイターを輩出するために

過去9年間の取り組みを振り返って。

一番の取り組みは「日藝賞」を創設したことです。今まで卒業生と個人の先生方との繋がりはあっても、卒業生と学部という組織の繋がりはほとんどありませんでした。本学部の活躍する出身者を毎年表彰し、講演してもらうということは学生にとっては創作意欲を刺激されることになり、受賞者には客員教授として本学部の教育・研究を手伝ってもらうきっかけにもなります。

学部長就任時から校友との繋がりを大事にしようと考えていたので、この賞の創設は非常に大きな出来事でした。

芸術教養課程の設置の意味と今後の展開について。

芸 術教養課程の設置も大きな取り組みの1つです。26年度で3年目となります。芸術学部の専門教育に必要な教養を身につけるということでカリキュラムの策定に取り組んできました。一般教育、外国語、体育、各学科の基礎的な科目は、芸術学部の教養課程として8つのアート1つのハートの基盤となるとの思いからです。

4年目を目前にして内容の見直しも進めています。プレゼンテーション能力を高めるための講座や現代史の講座の必要性も感じますし、外国語は様々な言語が選択できるように設定されていますが、すべての学生が英語に慣れ親しみ、英語でのコミュニケーションが少しでも身につくカリキュラムも検討すべきだと考えています。現在の芸術学部に必要な教養ということを念頭に置き、講座の「整理・統合・充実」を実施したいと考えています。

江古田キャンパス通年化を実施するねらいは。

も ともと「日藝は江古田」という思いがありました。所沢キャンパスを開校したことで定員の増員と充実した施設を手に入れましたが、平成22年に江古田キャンパスのリニューアルが完了し、所沢キャンパスが25年経過し、次の施策を検討するにあたり、すべての学年の学生が1つのキャンパスで闊達な議論を行い、創作活動に励むことが望ましい時期に来たと感じました。様々な学生が切磋琢磨し、お互いの創作活動に刺激を与えられる環境が必要だと。

江古田キャンパス通年化を実施するにあたり、不自由な思いをすることも多々あります。学生数が倍になることにより、教室や設備の使用が複雑になり、数の少ない施設を協力して使わなければならなくなります。すべての学生が江古田キャンパスに集結している意義を共有し、「整理・統合・充実」を掲げ、新しい教育システムの構築を推進します。



日本大学芸術学部長 **野田慶人**

日本の高等教育の国際競争力の低下が問題となる中、
日藝における国際化施策は。

基 本的にはサマースクールやスプリングスクールを充実させ、海外に飛び出す学生を応援したいと考えています。そのために海外渡航する学生の経済的負担を軽減する目的で新たな奨学金も設定しました。以前は語学力がなくても好奇心が旺盛で海外の芸術・文化を吸収したいという学生が多くそれが創作意欲の向上にも繋がっていました。

芸術は世界共通語、極論かもしれませんが言語を乗り越え、政治や国際問題をも乗り越えられます。奨学金等の土壌は芸術学部で整えますので、現在実施中のワシントン州立大学のサマースクールや今後、増設する予定のサマースクールやスプリングスクールに意欲的に参加して欲しい。そして海外のフェスティバルやコンペティションで賞が獲得できるよう努力・飛躍してもらいたい。



昨今の学生気質を踏まえ、どのような人材を育てたいか。

現 在のクリエイターに求められているものは、良いものを作ればそれで良いというわけではない。ビジネスとして作品を提供するには、アピールする能力や相手を説得する能力、いわゆるコミュニケーション能力が必要となります。Web文化は否定しませんが、そればかりでは、個々の世界に入り込み、人と直接話すという基本的な行為から遠のいてしまいます。

専門性、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、バランス感覚を磨き身につけ、世界で活躍できる芸術家、クリエイターを育てたいと考えています。こうして巣立っていった卒業生つまり人の財産が芸術学部のブランド力の向上に直結するものと確信しています。

横ばいだった18歳人口が2018年から再び減少に転ずる2018年問題と
ここ数年の志願者数の減少を踏まえて、選ばれる芸術学部への今後の取り組みは。

現 在では、芸術分野を目指す受験生は減少しています。しかも古典芸術から現代芸術まで擁する芸術学部は、その分野の広さから芸術系の単科大学から総合大学までと競い合うことになっています。芸術学部の置かれている状況は厳しいですが、本学部の魅力は芸術総合学部として学科を横断して様々な講座を受講できること。「8つのアート 1つのハート」をキャッチフレーズにこの魅力を外部に発信していきます。同時に各学科の特色をより特化して他大学との差別化を図りたいと考えています。

学科の再編という考えもありますが、目先にとらわれてブームで終わってしまうような学科を作ってもその場しのぎで終わってしまいます。それよりも写真学科とデザイン学科でコラボレイトする等新しい可能性を探ってみたり、学科の定員を見直して、少数精鋭で学科のブランド力の向上を図ってみたりと既存の学科の枠組みを残した改革を模索していきたいと考えています。

学生へのメッセージをお願いします。

仲 間と切磋琢磨し、楽しんで創作活動を続けてください。

先生と仲間といっぱい議論して、そして自分の殻を打ち破る。

これこそ自主創造です。

芸術界、クリエイティブな世界に数えきれぬ程の活躍者を輩出してきた93年の歴史と伝統を誇る芸術学部の文化・風土にどっぷり浸かってください。

今はお芝居をやっています。

富山えり子 ◯音楽学科 平成21年度卒



わたしは音楽学科弦・管打楽コース打楽器専攻を卒業しました。今は、お芝居をやっています。はい、音楽学科を卒業して、今はお芝居をやっています。ですので、音楽学科卒業生らしいお話はできないと思います。あしからず。

お芝居は、大学卒業と同時に始めました。もともと興味はあったので、演劇学科や映画学科など他学科の授業をとったりはしていましたが、大学4年間はわりとまじめに音楽をやっていました。打楽器専攻だったので、ほぼ毎日、太鼓や木琴と戯れていました。わたしの大学生活は授業と学食と別館(音楽実習棟)で過ぎていきました。

卒業が近づき、さて、この先なにをやるのかな、と考えたときに、あ、お芝居をやってみよう、と思い立ちました。その頃観に行った舞台でもらったチラシの束の中に、劇団鹿殺しの出演者オーディションの情報を見つけ、「楽器のできる人募集」と書いてあったので、これならできるかも、と受けてみたのがはじまりです。オーディションが卒業式の2日後だったので、本当に卒業と同時に、お芝居の世界に足を踏み入れました。

そうして出演した初舞台、劇団鹿殺し『電車は血で走る(再演)』。管楽器や打楽器の生演奏をする役者たちによる楽隊が重要な役を担っている音楽劇で、わたしは小太鼓を担当しました。楽器を担いで演奏しながら舞台上や客席を走り回りました。これまでやってきたことを生かすこともでき、なんとも恵まれた初舞台でした。

その後は、劇団鹿殺しや他の若い劇団の公演に参加させていただいたり、映画やドラマにも出させていだいたりしています。

今年2月には一人芝居をやらせていただきました。「カフェ マメヒコ 宇田川町」というカフェで上演したのですが、オーナーの井川啓央さんは、映画や演劇もつくっているとても面白い方(井川さんも日藝ご出身です)で、その井川さんが作・演出をしてくださいました。上演時間が約二時間の大作で、休憩なし、暗転なし、歌あり、もちろん大量の台詞ありの盛りだくさんな作品で、とても鍛えられました。一人芝居はまた挑戦できたらいいな、と思っています。

今はドラマの撮影中です。嬉しいことに、初めて連続ドラマにレギュラー出演させていただきます。しかもなんと、脚本は、偉大な先輩である宮藤官九郎さんです。もう、とにかく精一杯、楽しみながら頑張ります。TBS日曜劇場『ごめんね青春!』です。ご覧いただけましたら嬉しいです。

来年春には、今年の夏に撮影した映画、三原光尋監督の『あしたになれば。』が公開されます。こちらもよろしくお祈りします。

わたしは今、日藝で学んでいたこととは直接関わらないことをやっていますが、これまでやってきたことが、もちろん日藝での日々も、そのすべてが今に繋がっていて、すべてがめぐり合いなのだ、とつくづく感じています。すべてのご縁に感謝しながら、これからも一步一步進んでいきたいと思っています。

没頭する

森 香織 ◯デザイン学科 教授



無茶ができたり、脇目も振らずに何かに没頭したり、莫迦なことを真剣に考えたりできる時期が青春なのだとしたら、昔自分にもそういう時期が確かにあって、そこで得たものは失敗も達成感も含めて現在の自分につながっている。

私の場合は、美術系の学生だったにも関わらず、日本の古典的な楽曲=長唄の鼓の稽古に通いだしたあたりで完全にSEISHUNの渦にのみ込まれていってしまった。

元々デザインを創作するよりも研究する立場を考えていた私は、大量の実技の課題漬けだった1年生が終了すると、その反動か「全く違う新しい事を、普通ではできない事をしてみたい!」と考え突然実行に移した。歌舞伎座に出演する家元の自宅の素人相手の稽古場に、痺れる正座に耐えながら通うようになったのである。そこに集まるお弟子さんたちは芸大院生や外国人、落語家、役者、舞踊家、役人など多岐にわたる年上の個性的な大人ばかりで稽古の後の反省会という名の宴会まで含めて大学2年生の私にはチャンネルの違うあまりにも濃い世界であった。特に夏に開催される浴衣の温習会は浅草花街の芸者衆と一緒に曲を演奏するので、見番で彼女たちのお座敷の合間に稽古をするという玄人筋の日常に嵌っていつの間にか。お蔭で酒の呑み方も学生のコンパ呑みではなく最初から浅草の花街の呑み方を覚えてしまうことになった。

鼓というのは打楽器であるが、長唄は指揮者がいないので皆でかけ声をかけつつ「息」と「氣」を合わせて唄の帳尻に合わせる。素人演奏は「鳴った」「合った」のレベルであったが、家元を始めこの流派の人は上手下手ではなく、どれだけ一生懸命にやったかという努力と礼儀だけを重んじてのびのびと演奏させてくれた。

趣味の範囲で終わり、無事にデザインの学徒に戻って来れたのも、この師匠筋の立ち居振る舞いの美しさと色気、芸の品格、華のある舞台姿を間近で見ている、どんなに頑張っても素人とプロの間には超えられないものが存在することを理解できたからであり、それを感じられるほどことんのめり込めたからである。

和の打楽器とデザイン活動は何の繋がりもないように考えていた自分だが「間」という曖昧で計り知れない時間的な概念を空間や造形の中で思考するという修士論文をその後上梓したことで自分の中ではひとつの大きな世界が構築されていたことに改めて気がついた。一人の人間がやることは必ず繋がってくる。人生に「無駄な時」や「回り道」などというものは無く、何かに対して準備をしている時だったり、違うものを取り込む為に余裕を蓄えている時期だったりする。そういう時期があるからこそ次が開花するのである。

歳を重ねると人生で抱えるものが多くなってきて、無駄なことや厄介なことを避けて手っ取り早い方法を模索しようとするが、急いでも、あちこち廻って行っても人生のトータル時間はたいして変わらない。「今しかできないこと」というのは確かに存在するので楽しみながらしっかり見極め、悔いが残らないくらい没頭することである。

胸に残る言葉

上坪裕介 ◯文芸学科 助教



私たちは心のなかにいつも自分の姿を思い描いている。過去の出来事を振り返り、現在の自分を見つめる。また未来へ向かっては、こうありたいという姿を空想する。夢を叶えたい、理想とする人間になりたいと願う。それが生きる指針となり、喜びを見出す目を養うことにつながる。しかし、人生はなかなか思いどおりにはいかない。つらく苦しいことは多く、考えてもみなかった困難が次々にやってくる。己を見失い、明日への希望を持ってなくなることもある。思い描く自分の姿は、誰かと共有することはできないから孤独だ。また、たとえ目標に到達できたとしても、そのときにはすでにもっと別の想いを胸に抱いている。現在の自分も、理想とする未来の姿も経験によって日々変容していくからだ。そういう意味では満たされるということがなく、理想の自分へと向かう歩みは永遠に孤独なまま終わることがない。自己の想いやイメージの表出という点では、芸術表現全般にも同じことが言える。自分を見つめ、自分に向かって表現する。そしてそこに終わりはない。喜びも苦しみも、その孤独な歩みのなかにしかない。

私は2000年に芸術学部に入学生、大学院も含めて学生として10年、教職員として5年、この場所で学びつづけている。他人からは暢気にマイペースにやっているように見られがちだが、15年の日々は決して順調ではなかった。最初は漠然と、小説家になることが夢だった。それがいい小説を書きたいと志すようになった。やがて意義のある研究をして成果をあげることも目標に加わった。笑顔をやさしく、人の痛みがわかる人間になることも誓った。しかし、いまだに己の不甲斐なさに苛まれる日々を送っている。悩みや苦しきは尽きることがない。いっすべてを投げ出してしまったほうが楽だと、暗い気持ちにとられることもある。だがそんなとき、恩師の言葉が弱気になった私を支え、叱ってくれる。—ひとができることは自分もできる。自分ができるとはひとでもできる。そういうふうを考えて物事にのぞきなさい—その言葉を胸に、私はいまも諦めずに自分の道を歩んでいる。懸命にもがいたほうがなにかをつかめたときの喜びは大きいのだとわかったし、苦しいときほど人のやさしさを深く感じられるのだと知ることもできた。学生の皆さんにも、「ひとができることは自分もできる」と考えて、困難を恐れずにそれぞれの道を歩いてほしいと願っている。

言葉のチカラ

吉田佳代 ◯教務課



10年くらい前、以前働いていた会社を辞めて、友達と2人で2ヶ月間の海外旅行に出たことがあった。その時訪れたタイのピビ島という島は、ちょうど「H」のような形をしていて、その横棒にあたる場所は両側に海が見えるくらい細い一本道になっていて、その道の両側にはたくさんのお店や家が並び、観光客で賑わっていた。

友達とその道を歩いていると、道路脇の家から小学生くらいの男の子が自転車で乗って出てくのが見えた。その男の子は、大きな体格の割に明らかに小さな自転車で乗っていて、ふらふら蛇行しながら走っていた。旅も中盤になり、警戒心も解けてかなり浮かれていた私は、友達に「ねえねえ、あの男の子、体と自転車のサイズが合ってないね!」(実際はもっとひどい言葉だった…)と言って笑いながら通り過ぎたのだが、観光客でごった返している中、その男の子が後ろから私を目指したかのように突っ込んできたのだ。私は足を取られて転び、男の子はびっくりして近くにいた母親らしき女性の元へ駆け寄り、友達は「謝りなさい!」と男の子を追いかけに行き、通りがかった欧米人の旅行者が私を助け起こしてくれた。笑ってごまかしながらその場を後にしたが、心の中では、こんな偶然ってあるんだ、と啞然としたのを覚えている。

この一件以来、自分が使う言葉について、気をつけよう、と思うようになった。とはいえ、いつも気にかけていられるわけでもなく、とっさの時には普段自分が思っていることがそのまま言葉となって出てきてしまう。言い方や使う言葉によって、物事の結果というのは変わってくると思う。「言霊」という言葉があるように、自分の発したことが自分に返ってくるとしたら、いつでもいい言葉や考え方を身に付けていたい。

余談だが、江古田に「いい言葉と悪い言葉」という張り紙をしている居酒屋さんがいる。いい言葉の方には、「ありがとう」「楽しい」「うれしい」、悪い言葉の方には「嫌だ」「面倒くさい」「疲れた」などの言葉が並んでいて、その下には、「悪い言葉を言ってしまったら、いい言葉を書いて打ち消そう!」と書いてあった。妙に印象に残っていて、悪い言葉を使ってしまった後は、なるべくいい言葉を使ってなかったことにしている。効果は果たして?

芸術総合講座Ⅷ

映像コンテンツプロデュース論 ——東北新社グループ——

が開催されました!



8月4日から8日まで芸術総合講座Ⅷ「映像コンテンツプロデュース論—東北新社グループ—」が東北新社の本社内で行われました。

映像コンテンツを多岐にわたって制作している業界トップクラスの東北新社で行われた本講座は、学生が映像制作業界に就職した後に初めて知ることになるリアルな映像コンテンツビジネスに触れることができるように企画・構成されたものです。

CM、映画、テレビ番組、WEB、CG各分野で活躍中の、同社グループの現職プロデューサー10名が講師となり、プロデューサーを軸とした制作システムを、実際に制作された映像などを交えながら解説。またCMプロダクションマネージメント実習として、スタッフや撮影機材などを選び、CMを商品

として成立させる予算やスケジュール設計を体験学習しました。

加えて、VFXショーリール試写や編集室でのポストプロ、CGI作業見学のほか、機材室では撮影現場で活躍中のカメラにも触れるなど、実体験の機会も得られた講座となりました。

5日間を通じて、受講生たちはとても熱心に受講し、講師役の一流プロデューサーたちとの交流を深め、直接就職活動などにも生かせるアドバイスや、現場で使える知識などを教えてもらい、特に、映像制作業界を目指す学生たちにはとても有意義な講義だったとの感想でした。

今後もこのように、学生の皆さんが興味を持ち、積極的に参加したくなるような魅力的な講座を設けていきますので、これからもご期待ください。

東北新社グループ
プログラムマネージャー 木村政司

☆「映像コンテンツプロデュース論—東北新社グループ—」講師

- | | |
|------|---|
| 宮下 俊 | 常務執行役員 CM統括本部 本部長 |
| 大平崇雄 | 執行役員 CM統括本部 第1CM制作本部 本部長代理 |
| 河西正勝 | CM統括本部 第2CM制作本部 本部長代理 |
| 上家浩司 | CM統括本部 第1CM制作本部 第1プロダクションセンター 上家チーム長 チーフプロデューサー |
| 伊藤 隆 | CM統括本部 第2CM制作本部 第3プロダクションセンター アシスタントプロデューサー |
| 喜田洋司 | CM統括本部 管理統括部 統括部長 |
| 松岡芳弘 | プロモーション制作事業部 デザイン部 部長 |
| 城戸久倫 | (株)オムニバス・ジャパン コンテンツプロダクションセンター プロデュース部 プロデュース課 課長 |
| 宮本泰宏 | 執行役員 映像制作事業部 事業部長 |
| 伴野 智 | 映像制作事業部 第一制作部 課長 |

アメリカ・ワシントン州立大学 サマースクール実施

平成26年度のアメリカ・ワシントン州立大学 (WSU) でのサマースクールが8月26日から9月11日まで17日間の日程で実施された。

ワシントン州立大学と本学の交流はすでに40年以上にわたる。プログラムは、芸術学部の学生に向けてWSUのインテンスブアメリカンランゲージセンター (IALC) がコーディネートするものだ。今回は、映画、音楽、文芸、放送、デザイン学科から9名の学生が参加し、語学研修とフィットネス研修を中心とするプログラムを受講した。

IALCでの授業は、本学の単位認定も行われるもので、参加者は毎日熱心に授業に取り組んだ。朝9時からの午前中は、バラエティーにとんだ3コマの授業を受講する。キャンパスミュージアムの見学等を盛り込んだクラス、アート(オイルパステル、陶芸、水彩画の制作)を中心としたクラス、英会話を中心とするクラスが展開された。また、午後には、大学のスポーツセンターでのセッション (TRX、グラビティーコア、OULA、社交ダンス、ヨガなどから自由に選択) やゴルフクリニックを受講した。

アクティビティ (課外授業) や週末のトリップも盛りだくさんに行われた。アメリカ北西部ならではの小高い丘・カミアックピュート、アイダホ州の湖の街・コーダリーンでのギャラリーめぐり、サーモンリバーでのラフティング、日本から移住した方が経営される農場の訪問など、いずれも新鮮な体験となった。

放送学科教授 中町綾子



《ウェブサイトトップページ》



ここをクリック!



芸術学部ウェブサイトにて、 学部出身者の インタビュー動画を公開中!!

芸術学部ウェブサイトにて、現在各界で活躍する先輩方のインタビュー動画を公開中です。『日藝で得た繋がりととは』をテーマに、日藝との出会いに始まり、学生時代の日々の過ごし方や当時の思い出などをたっぷり語って頂いた、ボリューム感抜群で見応えのあるインタビューになっています。同じ道を進む若者に向けたメッセージもありますので、後輩にあたる学生の方々にとっても、今後のヒントや将来設計の手助けなど、得るものがたくさんあるはず。スマートフォンからも見られますので、是非ご覧になって下さい!

《現在インタビュー動画 公開中の8名はこちらです!》

- | | | |
|------|------------|------------------|
| 写真 | 報道カメラマン | 宮嶋茂樹 (1980年入学) |
| 映画 | 撮影監督 | 近森真史 (1978年入学) |
| 美術 | 彫刻家 | 飯田竜太 (2000年入学) |
| 音楽 | 作曲家・ピアニスト | 中島ノブユキ (1988年入学) |
| 文芸 | 小説家 | 木村友祐 (1989年入学) |
| 演劇 | 俳優・演出家 | 串田和美 (1961年入学) |
| 放送 | フリーアナウンサー | 近藤サト (1985年入学) |
| デザイン | 造形作家・デザイナー | 西村優子 (1997年入学) |

* 今後もさらに新しい方々の動画が公開される予定ですので、ご期待ください!

<http://join.art.nihon-u.ac.jp/>

写真学科

●写真甲子園2014・東川フォトフェスタ サポート

「写真の町」北海道東川町で開催された写真甲子園本戦バックアップ、及び東川フォトフェスタでのレギュラー講師や思い出写真館「Niji」への指導・サポートを写真学科教員が行いました。(8月4日～11日) また本年度は会期中写真甲子園OB/OGである写真学科3年生1名がインターンシップの研修先として併せてバックアップをしました。

●第28回 新潟県高等学校総合文化祭

写真専門部展審査

一次審査会(9月20日)二次審査会(10月23日)に審査員として協力しました。

●芸術資料館企画展

10月28日～12月5日開催(学部祭期間開催)
写真学科創立75周年記念「卒業生によるオリジナルプリント」展を開催中です、ぜひご覧ください。

●平成25年度卒業・修了制作優秀作品展開催中

平成27年1月まで、江古田校舎東棟1F写真ギャラリーにて順次展示中です。

●「日本大学芸術学部写真学科2015卒業展」
「選抜展」を開催します。

平成27年2月16日～28日まで平成25年度卒業生による作品展が江古田校舎西棟芸術資料館、3月上旬に新宿二コンサロンbisにて開催されます。また、選抜展も3月5日～11日ポर्टレートギャラリー(四ツ谷)で併せて開催予定です。

映画学科

●映画祭「ワーカーズ2014」開催

12月13日～19日渋谷区の映画館ユーロスペースにて、映画ビジネスゼミ3年生による映画祭「ワーカーズ2014」が開催されます。映画学科学生による映画祭は、今年で4回目。「働くということについて考える」というテーマで、現代の労働環境に問題提起する作品や、過去の名作を上映します。
●「紫陽花の唄べ方」が「青い翼大賞」を受賞
平成25年度卒業制作「紫陽花の唄べ方」が、「第32回青い翼大賞」を受賞しました。MPTE AWARDS 2014 第67回表彰式にて表彰されました。

●「ミシェル・ゴンドリーの世界一周」展に協力

東京都現代美術館で2015年1月4日まで開催中の「ミシェル・ゴンドリーの世界一周」展に協力しています。映画学科の学生が、WEB上の予告動画を制作しました。美術館のホームページで公開されています。また、動画を制作した学生へのインタビューが美術館のスタッフブログに取り上げられています。

●練馬アニメカーニバル2014で上映

10月18日と19日に行われた練馬アニメカーニバル2014にて、映画学科の学生が制作したアニメーション作品が上映されました。両日とも、区民・産業プラザCoconeriホールにて上映されました。

●ICAF2014で上映

ICAF2014で、映画学科の学生が制作したアニメーション作品が上映されています。東京会場は9月25日から28日まで国立新美術館3F講堂で開催されました。11月3日に新千歳空港国内線ターミナルビルで北海道会場が開催される他、全国を巡回します。

●ISMIE2014開催

インターリンク学生映像作品展・ISMIE2014の東京会場が、10月25日と26日に芸術学部江古田校舎大ホールにて開催されました。全国から集まった約22校の映像メディア系大学及び専門学校校の学生作品が上映されました。25日には、参加校の作品推薦教員による公開ディスカッションが行われました。

美術学科

●MOTコレクション特別企画「コンタクト」

東京都現代美術館 9月27日～平成27年1月4日
富井大裕助教が出品

●富井大裕個展(助教)

慶應義塾大学アートセンター 9月17日～11月28日

●第6回 柳瀬荘アート・教育プロジェクト

柳瀬荘(所沢市・東京国立博物館所有) 10月9日～11月2日
飯田竜太、今村 克、内山翔二郎、正親優哉、大槻孝之、北澤一伯、桐生ミナミ、鞍掛純一、小峰英利、関口茂る、玉野綾子、寺内曜子、富井大裕、豊島鉄也、野口由里子、長谷川佐知子、林 舞子、平林 洋、船橋みふゆ、松本 隆
会期中のイベント
10月12日 柳瀬荘茶会/10月19日 ワークショップ「柳瀬荘竹取物語」/10月26日 アーティストトーク、パフォーマンス「横笛・彫刻・ダンス」

●鷹尾俊一展(非常勤講師)

江古田校舎 A&Dギャラリー アートギャラリー
11月5日～22日

●北野生涯教育彫刻奨学生受賞者展

江古田校舎 A&Dギャラリー アートギャラリー 芸術資料館 12月8日～20日

●メキシコ版画展

メキシコの版画工房「ラセイバグラフィカ」で制作した版画作品展 A&Dギャラリー 10月7日～11月3日

●笹井祐子個展(准教授)

ギャラリー 1/f 12月2日～13日

●全国大学版画展

町田市立国際版画美術館 12月6日～21日

音楽学科

平成26年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。

●第45回 オペラ公演

練馬文化センター・小ホール
11月5日 18:00開場/18:30開演予定

(演奏曲目) モーツァルト: 歌劇「魔笛」(ハイライト)

○指揮 江上孝則 ○演出 岩田達宗

●第42回 ファカルティコンサート

芸術学部音楽小ホール

11月8日 17:30開場/18:00開演予定

音楽学科の教員による演奏会です。

●第50回 室内楽の夕べ

練馬文化センター・小ホール

11月13日 17:30開場/18:00開演予定

9月末に行われる室内楽学内演奏会において、優秀であった団体による演奏会です。

●第26回 ウインドオーケストラ定期演奏会

練馬文化センター・小ホール

11月18日 18:00開場/18:30開演

○指揮 稲川榮一

○演奏 日本大学芸術学部音楽学科ウインドオーケストラ

●第43回 ピアノコンサート

練馬文化センター・小ホール

11月21日 15:00開場/15:30開演

本学ピアノコースの学生による選抜演奏会です。

●第115回 定期演奏会

新宿文化センター・大ホール

12月1日 18:00開場/18:30開演

○指揮 矢崎彦太郎 ○合唱 日本大学芸術学部合唱団

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●大学院修了演奏審査会[ピアノ・声楽・管楽]

芸術学部音楽小ホール 12月17日

ピアノ: 10:00開演/声楽: 13:00開演/管楽: 17:00開演

●第35回 新作室内楽の会

芸術学部音楽小ホール

12月19日 開場/開演時刻未定

提出作品より選抜された曲の演奏会です。

●平成26年度大学院修士論文要旨発表会・修了演奏会

練馬文化センター・小ホール

平成27年3月9日 開場/開演時刻未定

修士論文・修了演奏審査会において優秀であった院生の論文要旨発表会・演奏会です。

●平成26年度卒業論文要旨発表会

東棟3階E-301教室

平成27年3月19日 13:30開場/14:00開演

卒業論文が優秀であった学生による論文要旨発表会です。

●平成26年度卒業演奏会

練馬文化センター・小ホール

平成27年3月19日 17:30開場/18:00開演

卒業演奏審査会において優秀であった学生の演奏会です。

●SWITCH 2015

芸術学部音楽小ホール他

平成27年3月21日・22日 開場/開演時刻未定

情報音楽コースによる作品発表

文芸学科

●坂本 如さんが第30回 日大文芸賞受賞!

大学院芸術学研究科文芸学専攻博士前期課程2年生の坂本如さんが「猛暑日」で第30回日大文芸賞(日本大学新聞社主催)を受賞しました。また、文芸学科4年生の田中里咲さんが「のんのあん」で優秀賞を受賞、大学院芸術学研究科文芸学専攻博士前期課程1年生の入倉直幹さんが「ペールトーンの卵」で、卒業生の額賀 滯さんが「禱り。敗走の先。」でそれぞれ佳作を受賞しました。

●「第25回 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」に入賞・入選!

「第25回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」には、過去最多の173万9,401件の応募があり、その中で下記の学生・卒業生の作品が選ばれました。

《佳作特別賞》

松明けや玉豆富へ匙入れる 副島亜樹(文芸学科2年)

短夜を回す浮世の観覧車 加藤 澤(文芸学専攻1年)

《佳作》

喜んで暴れる河豚の刺身かな 二川智南美(卒業生)

磁石だけ増えて生家の冷蔵庫 小沼 理(卒業生)

花疲れ川の長さ知らぬゆへ 竹川祥子(卒業生)

どこから琴が奏でる茶摘み唄 河内智美(文芸学科2年)

歯ブラシを口に含みて凍る朝 佐藤園子(文芸学科3年)

鴨の群風に向かいて並走す 小河原杏里(文芸学科3年)

未だ抜けぬ父の詠りや初笑 永沼絵莉子(文芸学科4年)

●松崎しげる氏が第8回日藝賞受賞記念講演

第8回日藝賞の受賞者である、松崎しげる氏が6月24日、「LOVE SONGを歌い続けて45年、数々の名曲を母校にて!!」と題して江古田校舎大ホール棟にて記念講演並びにコンサートを行い好評を博しました。

●第17回 文学フリマin大阪に参加しました!

文芸学科は、9月13日に行われた第17回文学フリマin大阪に参加し、平成25年度発行のゼミ雑誌を中心に展示・配布しました。

演劇学科



前期の公演を終え、後期から江古田・所沢両校舎で発表致します。各演目個性があり、魅力溢れる公演です。12月には、学生生活最後の集大成4年生の卒業制作をどうぞご覧ください。11月からの公演は下記の通りです。

●総合実習II C(日舞)

「温古知新」 創舞指導: 花柳 基

江古田校舎北棟中ホール 11月22日

●総合実習IB(洋舞)

「Dance Performance—シンメトリー形式による創作表現—」 創舞指導: 加藤みや子・松永雅彦

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス 11月28・29日

●卒業制作(演劇)

「検察側の証人」 アガサ・クリスティエー作

演出指導: 山田和也

江古田校舎北棟中ホール 12月4日～6日

●総合実習IC(日舞)

「くいでって〜グリム童話プレーメンのおんがく隊より〜」

創舞指導: 藤間恵都子

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス 12月6日

●卒業制作(洋舞)

「Dance Performance—自由形式による創作表現—」

創舞指導: 加藤みや子

江古田校舎北棟中ホール 12月12日・13日

●卒業制作(日舞)

「Episode」 創舞指導: 花柳昌太郎

江古田校舎北棟中ホール 12月19日・20日

※観劇にはご予約が必要です。詳しくは学科ホームページをご覧ください。 <http://www.theatre.art.nihon-u.ac.jp/>

放送学科

●中学生のための情報番組制作ワークショップ

今年で5回目となる

「中学生のための情報番組制作ワークショップ」

(練馬区教育委員会主催・放送学科共催)が、6月

28日から8月6日まで、

鈴木康弘教授指導のもと

と江古田校舎にて開催されました。これは、情報番組の制作を通してメディア・リテラシーを身につけることを目的とした職業体験型ワークショップ。今回は、「練馬区の『素敵』を見つける」をテーマに、中学生自らが企画・取材・編集、そして本番のスタジオ収録までチャレンジし、テレビ情報番組『練馬素敵調査隊!』を制作しました。

●映像技術Ⅲ 館山合宿

映像技術Ⅲは、9月16

日から20日まで、落合賢

一教授指導のもと館山

セミナーハウスにてドラマ

撮影の合宿を行いました。

今年のドラマ『事情

Affairs』は、放送作家の井辺 清さんが脚本を執筆し、演出は人気シリーズ『税務調査官 窓際太郎の事件簿』を手がける山崎康生監督。お二人は、共に放送学科OB(S57年度卒)で、昨年度のドラマ『サンドウィッチ Sandwich』に続いて、今年度も映像技術Ⅲの実習に協力して下さいました。

なお、『事情 Affairs』は、完成後、放送学科ホームページにて公開する予定です。

デザイン

●版画フォーラム2014にて在学生と卒業生が受賞!

版画フォーラム2014『和紙の里ひがしちふ展』にて下記

在校生、卒業生が受賞しました。

○埼玉県芸術文化実行委員会 会長賞

円三郎のたばこ屋/佐久間加奈(H25年度CDコース卒業生)

○横川郵便局長賞

Gift - VI - /熊田綾菜(H22年度CDコース卒業生)

○入選 気分アゲアゲ/細淵光美(H26年度2年生)

展示は下記の日程でおこなわれました。6月21日～28日午前10時～午後4時 会場: 東秩父村和紙の里

●産学連携プロジェクト「液体容器新形状 機能開発」で提案された牛乳パックが製造販売されます。

日本製紙株式会社グループと日本大学芸術学部デザイン

学科との産学連携デザインプロジェクト「液体容器の新形状機能開発」で提案された牛乳パックが8月29日から、四国

乳業株式会社(本社:愛媛県東温市)より製造販売されます。

同プロジェクトは2008年に、肥田教授指導のもと、1年間

かけて実施され、その後、日本製紙株式会社にて様々な実験、検証を経てようやく商品化されることになりました。

●在学生と卒業生が「メディアアーツ逗子2014」に参加しました。

2012より本学の様々な領域の教職員、在校生、卒業

生が、作品発表、ワークショップ実施、運営などに参加して

いる「メディアアーツ逗子」(逗子メディアアートフェスティバル改め)に今年も参加しました。これは、逗子市内で開催される

メディア・アートの祭典です。プロジェクトマッピングの

国際コンペティションをはじめ、町中の様々な場所で、多彩

な映像作品やインスタレーション作品が公開され、地域の人々、クリエイター、学生達と一緒に、逗子の街から

先端芸術を配信し、文化的拠点をつくっていくというもの。

今年の目玉のひとつは、昨年のプロジェクトマッピング

国際コンペのグランプリを受賞した、デザイン学科卒業生の

FLIGHTGRAFが上映する、3Dのプロジェクションマッピング

でした。大盛況のうちに終了しました。

「メディアアーツ逗子2014」開催期間: 2014年 9月20

日～28日 会場: 神奈川県逗子市内各所(逗子市文化プラザ、逗子小学校、市民交流センター、フェスティバルパーク、など)

●助手と卒業生が福島県いわき市でワークショップをおこないました。

9月20日、中島助手を中心に卒業生と久之浜大久地区まちづくりサポートチームと一緒に福島県いわき市久之浜にて水族館を作り、そこでワークショップがおこなわれました。久之浜は名前の通り海に面した土地ですが、震災を受け、現在海には立ち入る事は出来ません。海を目の前にして、そこに入れないということ。今回、光やプロジェクションで作った海や水族館「Hisanohama aquarium」でワークショップをおこなうことで再度、海について一緒に考える機会になればという思いでした。こちらでも地元の人やこのために遠くから駆けつけた人まで様々な地域や世代が参加し、大盛況のうちに終了しました。

College Administration Office

【事務局からのお知らせ】

●平成26年度 授業日程

芸術学部祭 11月1日(土)、2日(日)、3日(月) 於: 江古田校舎(1日は休講)
学部祭後片付けのため休講 11月4日(火)
一般推薦・外国人留学生等入試 11月16日(日)
通常授業実施 11月24日(月)【勤労感謝の日振替日】
付属高等学校推薦入試、編入・転部試験 12月14日(日)
後期前半授業終了 12月15日(月)
卒業試験 12月16日(火)～22日(月)まで
後期補講期間 12月16日(火)～22日(月)まで
※補講の実施を必要としない科目については、休講とする。
冬期休暇 12月24日(水)～平成27年1月7日(水)まで
後期後半授業開始 平成27年1月8日(木)
卒論・卒制提出手続 平成27年1月14日(水)、15日(木)
学年末A試験(含、後期試験及び卒業追・再試験) 平成27年1月21日(水)から27日(火)まで(授業内試験)

※試験を実施しない科目、B試験該当科目は平常通り授業を行う。
学年末B試験(含、後期試験及び卒業追・再試験) 1月28日(水)から2月2日(月)まで

※所定の試験時間割にて試験を実施し、平常授業は行わない。
学年末休暇 2月3日(火)から

平成26年度卒業式 3月25日(水)(全日大) 於: 日本武道館
芸術学部学位記授与式 3月25日(水)午後 於: 江古田校舎

●芸術資料館企画展開催日程

写真学科創立75周年記念「卒業生によるオリジナルプリント」展
10月28日(火)～12月5日(金)

※10月31日(金)～11月4日(火)学部祭期間【含準備・後片付け】、11月24日(月・祝)閉館(財)北野生涯教育振興会彫刻奨学金受賞者展 12月9日(火)～20日(土)

日本大学芸術学部 助手展 平成27年1月9日(金)～20日(火)
日本大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻修了制作展 平成27年1月22日(木)～1月30日(金)

日本大学芸術学部写真学科平成26年度卒業制作展示「卒業」
平成27年2月16日(月)～28日(土)

日藝卒展 平成27年3月14日(土)～22日(日)
※3月15日(日)・3月21日(土・祝)・3月22日(日)閉館

●平成27年度一般入学試験日程

※期日はすべて平成27年、試験場は江古田校舎とする
【第1期】(募集人員 374名)

学科 (募集人員)	出願期間		試験日	合格発表
	郵送(必着)	窓口受付		
写真(43)	1月8日(木)～1月27日(火)	1月27日・28日(火・水)	2月3・4日(火・水)	2月13日(金)
美術(30)			2月3・4日(火・水)	2月13日(金)
音楽(43)	1月8日(木)～1月27日(火)	1月27日・28日(火・水)	2月3・4・5日(火・水・木)	2月13日(金)
放送(54)			一次 2月3日(火) 二次 2月6日(金)	一次 2月5日(木) 二次 2月13日(金)
デザイン(40)	1月8日(木)～2月3日(火)	2月3・4日(火・水)	2月3・4日(火・水)	2月13日(金)
映画(64)			2月10・11日(火・水)	2月19